

2) 医療機器の使用に関する事故

医療機関から報告された事故事例のうち、医療機器の使用に関して発生した事故は平成16年10月から平成17年3月までの6ヶ月間で7件であった。このうち、1件の事例については個別医療機関に調査を行い情報収集した。

機器の使用に関する事故の内容としては、アラームの設定に関するもの(2件)、チューブの接続に関するもの、人工呼吸器に関するもの、自動縫合器に関するもの、放射線治療機器に関するもの、ダーマトーム(皮膚の採取に使用する医療機器)である。

機器の使用に関する事故の原因として医療機関から報告から考えられるものは、以下の事例である。

- ①誤ったアラーム設定(アラームをOFFとしていた事例を含む)
- ②チューブの接続外れ
- ③医療機器、医療用具の操作ミス
- ④医療機器の誤作動と考えられるもの

現在、医療機器に関して発生する事故については分析・検討を進めているところであり、まだ報告できるまでの精査に至っていない。今後も鋭意分析作業を行っていくこととしている。

なお、医療機器の使用に関する事故に関しても、手術等における異物残存と同様に、さらに情報を収集するため、ヒヤリ・ハット事例のテーマとして設定を行うこととした。第15回のヒヤリ・ハット事例収集事業(平成17年1月～3月発生分・平成17年5月締切)においては、人工呼吸器に係るエラーを事例収集テーマとして設定し、情報の提供を求めているところである。事故事例情報とヒヤリ・ハット事例情報を総合的に分析することによって、医療機器の使用に関する事故を未然に防ぐためのよりよい方策の策定が期待できる。

分析班では、現段階で収集された情報に基づいて、医療機器の使用に関する事故を予防する方策として、個別の医療機関で取り組める方策に加え、医療機器の構造上の具体的な改善点に関して何らかの提言を行うことが可能であるかどうかについて検討しているところである。